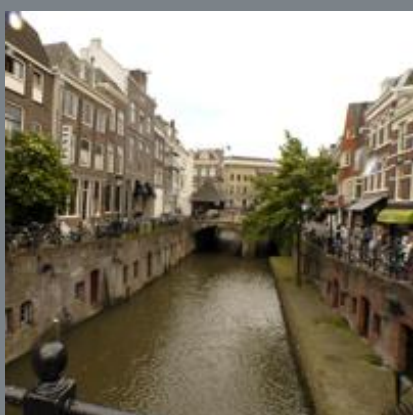


06. ユトレヒト～エデュカトリウム



ユトレヒトの旧市街地の運河沿いにはオープンテラスのカフェやバーが立ち並んでいる。ユトレヒトの運河は道路から地下に1階分下がったレベルにあり、道路下のトンネル空間を運河の水際空間と連続する地下室として利用している。都市インフラの運河と道路を立体的に活用した特徴的な街並みはアムステルダムとはまた違った運河の街並みを形成している。

ユトレヒトでの視察対象の一つとしてユトレヒト大学のエデュカトリウムとした。エデュカトリウムは90年代初頭レム・コールハースの設計で有名な曲面スラブによる建築である。外観の曲面スラブを表現した断面的ファサードがシンプルにコンセプトを体現しているが、内部空間は想像以上に多様性を感じた。一面ガラス張りの緑が移りこんだ教室の壁面、波板ポリカーボネイトと蛍光灯を組み合わせた光壁、OSBボード型枠の打ち放し壁面、プロフィルガラスの拡散光に溢れた光壁、設備配管を納めたメッシュフェンスの透かし壁、壁一面の黒板などそれぞれの壁面を特徴づけ、それらによる個性的な空間同士がスロープや緩やかな階段・うねる壁面によって3次元的に連続していく建築空間だった。体験することで初めて理解できる建築であり、当時、空間の流動性など新しい時代の建築として注目を浴びたのが理解できた。

多鹿 祐司